

特集 「果樹王国やまがた」の再生に向けた取り組み ～果樹産地のさらなる発展を目指して～



県が20年以上の年月をかけて育成した「やまがた紅王」が今年プレデビューしました。
「果樹王国やまがた」のさくらんぼ生産を支える主力品種の一つとなることが期待されます。

果樹王国やまがた

山形県は、さくらんぼの収穫量が全国一で、約75%のシェアを誇り、その他にも、ぶどう、りんご、西洋なしなどの生産が盛んな「果樹王国」です。本県の令和2年の果実産出額は全国第4位の729億円、県の農業産出額では米に次いで多く、約30%を占めています。また、果樹産業は、例えば観光果樹園のように観光などの関連産業への波及効果の大きい産業でもあります。

品目	産出額 (億円)	全国順位
さくらんぼ	333	1位
ぶどう	158	4位
りんご	95	4位
西洋なし	62	1位
もも	44	6位
かき	15	9位
すもも	10	3位
果実全体	729	4位

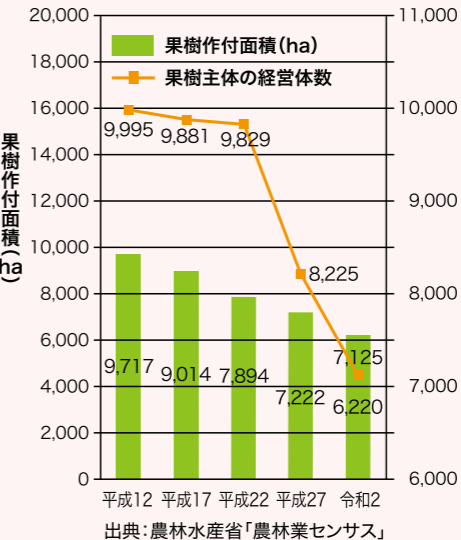
出典：農林水産省「生産農業所得統計」

1 気象災害による被害の拡大

近年は気象災害が激甚化・頻発化し、果樹生産でも被害が拡大しています。特に令和3年春には、広域的な凍霜害が発生し、果樹全体で129億円の未曾有の甚大な被害を受けました。安定的な果樹生産のためには早急な対策が必要です。

2 高齢化による果樹経営体の減少

果樹生産は、苗木を植えてから収穫まで数年かかり、新規参入にはハードルがあります。これまで生産の中核を担ってきた世代の高齢化により、果樹経営体数は、年々減少しています。果樹生産は人手不足を解消するための機械化が難しく、経営面積の拡大にも限界があるため、新たな担い手を育成する必要があります。



3 園地の生産性の低下

果樹の老木化や雪害による枝折れなどで園地の生産性が低下しています。また、高齢者が離農しても、園地が新たな担い手に継承されず、廃園となるケースも増えています。今後も果樹生産を維持するには、果樹の植え替えや園地の集約などにより生産性を高め、新たな担い手に継承する必要があります。

1 気象災害対策

県では、ソフト・ハードの両面から気象災害対策を進めています。

ソフト面では、令和4年3月に「果樹凍霜害対策マニュアル」を作成し、対策を広く周知するとともに、デジタル技術を活用した低温アラート情報を提供しています。具体的には、県内の果樹園地57カ所に設置されている「気象観測装置」で気温を観測し、気温が低下するとメールでお知らせするシステムを今年から稼働しています。

また、ハード面では、散水した水が凍結する際の熱を利用して霜害を防止する散水設備や加温装置などの導入を支援しています。



さくらんぼ生産者 秋場尚弘さん (寒河江市)

散水設備を導入し、低温アラートをもとに散水したことで、令和4年の霜害はほとんどありませんでした。

2 新たな担い手の育成・確保

県では、新規就農希望者からの相談や農業者からの経営相談に応じる

「山形県農業経営・就農支援センター」を立ち上げました。センターでは、ワンストップで就農前の研修や就農後の生活資金、農業機械などを購入する資金をはじめ、さまざまな相談を受けています。特に、果樹は苗木を植えてから収穫まで数年かかるため、安定的な生産までの支援を行っています。

また、地域の新規就農者受入団体に対して、新規就農に必要な農業機械や施設の導入を支援し、担い手の育成・確保の取組みを後押ししています。



大江町就農研修生受入協議会「OSINの会」会長 渡辺誠一さん

県の事業を活用し、新規就農者にリースする農業機械を導入しました。「OSINの会」ではこれまで約20名の新規就農者を受け入れています。

3 就農しやすいリース型園地の整備

県では、市町村と連携し、JAや農業法人などが先行投資により生産性の高い大規模な園地を整備し、新規就農者などにリースする取組みを進めています。初年度から収穫できる園地を新規就農者などにリースす

〈事業イメージ〉

JA・農業法人など

生産性の高い園地の整備
・園地の集約
・果樹の植え替えや新植など

新規就農者など

通常、苗木植えから収穫まで数年かかる...
すぐに収穫できる!

▲ **メリット**

先行事例：JAやまがたシャインマスカット園地(山形市)
平成30年から1.7haの園地を整備。現在未経験者4名を含む6名が栽培を開始。

4 果樹の魅力を高める研究開発

県農業総合研究センター園芸農業研究所では、今年プレデビューした「やまがた紅王」に続く、さくらんぼや西洋なし、りんご、ぶどうの新品種の開発に取り組んでいます。

また、危険な高所作業が少なく、高齢者や栽培経験が浅い人でも取り組みやすい「さくらんぼの新型樹形」など、栽培技術の省力



今年プレデビューした「やまがた紅王」

「果樹王国やまがた」の発展に向けて

本県の果樹産業は、農業者と農業団体、行政が一体となって、栽培技術や品種の改良、園地整備、流通対策などに取り組み、「佐藤錦」、「ラ・フランス」などをトップブランドの品目に育て上げてきました。今後、先人が育て上げた産地を新たな担い手に継承していくための取組みを強化し、「果樹王国やまがた」のさらなる発展を目指します。



新型樹形のY字樹形
新型樹形の平棚樹形

ぜひご覧ください！

県政テレビ番組 **いきいきやまがた** 放送のご案内

「『果樹王国やまがた』の再生に向けた取組み」と題して県内民放4局で特別番組(30分)を放送します。

さくらんぼテレビ(SAY)
●9月4日(日)午後4時～

山形テレビ(YTS)
●9月11日(日)午後4時～

テレビユー山形(TUY)
●9月17日(土)午後5時～

山形放送(YBC)
●9月24日(土)午後4時25分～

放送時間は変更になる場合があります。

▶問い合わせ ◎ 園芸大国推進課 ☎023-630-2466